

製品安全データシート

販売者情報	会社	LECO ジャパン合同会社
	住所	〒105-0014 東京都港区芝 2 丁目 13 番 4 号 住友不動産芝ビル 4 号館
製造者情報	担当	MSDS 担当者
	電話番号	(03) 6891-5800 FAX 番号 (03) 6891-5801
	会社	LECO Corporation
	住所	3000 Lakeview St. Joseph, Michigan 49085, U.S.A.

整理番号 01200

製品名（化学名、商品名等） **Nickel capsule, Baskets, Flux, Nibbled, Pins, Wire**

ニッケルカプセル、バスケット、フラックス、切り粉状、ピン、ワイヤー
 パーツナンバー：501-598, 501-951, 502-343, 502-344, 502-345, 502-411
 502-495, 502-495-001, 502-495-010, 763-029, 763-065, 502-820

物質の特定

単一製品・混合物の区別	単一製品
化学名	ニッケル
成分及び含有量(wt%)	ニッケル 100%
化学式又は構造式	Ni
官報公示整理番号 化審法	対象外
安衛法	—
PRTR 法	1 種 231
C A S No.	7440-02-0
国連分類及び国連番号	クラス 4.2 等級 II (金属触媒、湿性のもの)

 危険・有害性の分類

分類の名称	: GHS 分類
物理化学的危険性	: 分類対象外または分類できない
健康に対する有害	: 呼吸器感作性または皮膚感作性 呼吸器感作性 区分 1 皮膚感作性 区分 1 発がん性 区分 2 標的毒性/全身毒性(単回暴露) 区分 1(呼吸器、腎臓) 標的毒性/全身毒性(反復暴露) 区分 1(呼吸器)
環境に対する有害性	: 水生環境有害性(慢性) 区分 4

シンボル

:



 応急措置

眼	: 大量の水で 15 分以上洗い流す。
皮膚	: 接触部位を水で洗い、汚染した服を取り除く。汚染した服は洗浄すること。長期または反復接触を避ける。
吸入	: 急性呼吸障害が発生した場合は新鮮な空気に入れ替える。医師の診断を受ける。
飲み込んだ場合	: 大量に摂取したとき、意識がある場合は水または食塩水を飲ませて吐かせる。医師の診断を受ける。

 火災時の措置

可燃性情報	: ニッケルが粉状の場合は空気との接触で発火する。
発火点	: -
爆発限界	: 下限 なし 上限 なし
自己発火温度	: 該当なし
消火剤	: ドライケミカル
消火方法	: 自給式呼吸器を使用する。塊状のニッケルは発火や爆発の危険はない。溶融状態での水との接触は爆発を起こす可能性がある。

 漏出時の措置

パイプ状かつ固体のため漏出しないが、散乱した場合は、できるだけかき集めて、空容器に回収する。

取扱い及び保管上の注意

- 取扱い : 作業場の換気を良くする。金属ニッケルの取り扱いでは微細のダストやミストの発生に注意する。
- 保管 : ニッケルアレルギーを持った人は取り扱わないこと。容器をしっかりと閉める。

暴露防止措置

- 技術的コントロール : 作業場の換気を良くする。
- 呼吸器の保護 : ダストや蒸気には呼吸装置の使用を推奨する。
- 皮膚の保護 : 皮またはゴム手袋
- 眼の保護 : サイドシールドつき保護メガネ。金属が溶解している場合ゴーグルで接触を防ぐ。
- その他の保護具 : 保護衣、安全靴

物理/化学的性質

- 外観等 : 銀白色固体、無臭
- 沸点 : 約 2730℃
- 融点 : 約 1453℃以上
- 揮発性 : —
- 蒸気密度 : —
- 比重 : 約 8.9
- 溶解度 水 : 不溶
- pH : 該当しない

 危険性情報

安定性・反応性 : 鉍酸と反応し、可燃性・爆発性ガスである水素を発生する。フッ素、硝酸アンモニウム、ヒドラジン、アンモニア、過ギ酸、硫黄と激しく反応する。ある条件下では一酸化炭素と接触し毒性ガスであるニッケルカルボニルを発生する。酸化剤、インターハロゲン、ハロゲン、硫黄、アンモニアとの接触を避ける。融点以上では酸化ニッケルガスが発生する可能性がある。

 有害性情報

刺激性（皮膚、眼） : 微粒子は眼に刺激を与えることがある。繰り返しの接触により敏感な肌に過敏症が起こる場合がある。

吸入 : ニッケルを含む微粒子への暴露によりごく少数の喘息のケースが報告されている。

経口摂取 : 毒性（低経口毒性レベル）

感作性 : 皮膚接触により可能性あり

病状の悪化 : データなし

慢性毒性 : 溶接上記、ガス、ダストの長期暴露は悪影響を及ぼす場合がある。これには皮膚の過敏症神経性ダメージ、呼吸器系疾患を含む。暴露は既定の濃度以下で管理すること。

急性毒性 : 上記参照

がん原性 : OSHA CFR1910.2000(d)(4)(i)によると NTP が発がん性物質であると疑われると報告したことから金属ニッケルは発がん性ハザードであると考えられている。IARC(1989 6 月)は金属ニッケルをグループ 2B (ヒトに発がんの可能性あり)と分類しているが不十分なヒトでのデータによるもので動物での証拠はない。

毒性情報

この物質の急性または慢性毒性は完全には知られていない。

EPA-A : ヒト発がん性：疫学調査から接触とがんへの関与を理論づける十分な証拠が存在する。

IARC-2B : 発がんの可能性：ヒトでの限られた証拠があるが実験動物での十分な証拠がない。

NTP-2 : 発がん性物質と考えられる：ヒトでの限られた証拠があるが実験動物での十分な証拠がない。

ACGIH A5 : 発がん性は認められない：ヒトでの疫学調査から発がん性は認められない。調査は十分に長期にわたり、信頼できる暴露経緯、十分な高投与量、十分な統計的見解からこの物質ががんへの重大なリスクを持たないことを結論付けた。実験動物において発がん性のないことはその他の関連データに理由づけられれば証明されるだろう。

RTECS : The Registry of Toxic Effects of Chemical Substances に本製品の成分の腫瘍性、発がん性、腫瘍形成データが記載されている。

環境影響情報

分解性 : データなし
蓄積性 : データなし
魚毒性 : データなし

廃棄上の注意

土中に埋立処理をする。

輸送上の注意

輸送の際は、容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
輸送に関する法令に従う。

適用法令

化学物質管理促進法(PRTR 法) : 施行令第 2 条別表第 1 (第一種指定化学物質) 231

その他

- 参考文献 本製品の英文 MSDS(12/04/08) : LECO Corporation
製品安全データシートの作成指針 : 日本化学工業協会
化学便覧 : 丸善
化学品安全管理データブック(1996年) : 化学工業日報社
化学品安全管理データブック CD-ROMver.2.0 : 化学工業日報社
労働安全衛生法 MSDS 対象物質全データ : 化学工業日報社
化学物質管理促進法 PRTR・MSDS 対象物質全データ: 化学工業日報社

作成 : 平成 22 年 5 月 28 日

改訂 : 平成 23 年 7 月 11 日 住所変更

- * 記載内容は、現時点で入手できた資料、情報、データ等に基づいて作成しておりますが、必ずしも万全なものではなく、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。製品の取扱いには十分に注意してください。
尚、新たな情報を入手した場合は、追加又は訂正することがあります。